

第3節

活気あふれる産業づくり

施策13

農林水産業の振興

施策の 目指す姿

高品質な農林水産物の生産や6次産業化^{※60}、ブランド化などを推進し、力強い農林水産業が確立された「まち」を目指します。

1 農業の振興

市の現状と課題

現 状

- 本市の農業は、中山間地域という不利な生産条件の下、水田農業を中心に、果樹や施設園芸、畜産などの複合経営が営まれています。特に伊万里牛、伊万里梨等については、伊万里ブランドとして高い評価を受けており、ふるさと応援寄附^{※61}の返礼品としても全国屈指の人気を誇っています。
- 全国的に農家戸数が減少する中、耕作放棄地が増加しており、本市においても、農業就業者の減少や高齢化等に伴い、農家数は平成27年（2015年）には2,628戸と5年前の約90%に減少し、耕作放棄地は農地面積の約16.4%に増加しています。
- イノシシ等の有害鳥獣による被害は依然として後を絶たず、平成28年度（2016年度）では、約3,397万円の被害額となっています。

課 題

- 平成30年（2018年）から米の直接支払交付金が廃止となり、米の生産数量目標も国の強制力がなくなるため、需要に応じた米づくりが求められています。
- TPP^{※62}等による影響など農業を取り巻く厳しい情勢の中、農産物の品質向上や伊万里ブランドの普及拡大が必要となっています。
- 地域農業の担い手となる認定農業者^{※63}や認定新規就農者、集落営農組織^{※64}などの育成・確保、担い手への農地の集積など、農業所得の向上と農業経営の効率化に向けた取組が必要になっています。

※60 6次産業化：

第一次産業である農林水産業が、農林水産物の生産だけにとどまらず、それを原材料とした加工食品の製造・販売や観光農園のような地域資源を生かしたサービスなど、第二次産業や第三次産業まで手掛けること。

※61 ふるさと応援寄附：

自分の意思で応援したい自治体に寄附をすることができる制度のこと。寄附をした場合に税の控除や返礼品等を受け取ることができる。

※62 TPP：

Trans-Pacific Partnership Agreement（環太平洋パートナーシップ協定）の略。環太平洋地域における貿易自由化を目指す経済連携協定のこと。

※63 認定農業者：

農業経営基盤強化促進法の規定に基づき、都道府県の作成した基本方針、市町村の農業経営基盤強化のための基本構想に基づく農業経営改善計画を市町村に提出し、認定を受けた農業者のこと。

※64 集落営農組織：

集落単位で農家が共同で農機具を所有したり、農作業を行ったりする組織のこと。



取組方針

1. 担い手の育成と農業経営の効率化

- 各種補助事業を実施しながら、農地・農業用施設の再整備や農地中間管理機構との連携による担い手への農地集積を図り、農業環境の向上および農業後継者の確保に努めます。
- 農業用機械や施設の共同利用、共同作業により相互に支え合う集落営農の組織化を推進し、生産コストの低減と効率的な農業経営の確立を図ります。
- 国の水田農業に関する施策の活用や高性能機械の導入等により、水田農業の経営安定を図ります。
- 農作物に深刻な被害を及ぼすイノシシなどの有害鳥獣による被害防止については、猟友会との連携により捕獲活動などに取り組みます。

2. 農地・農村環境の整備

- 中山間地域においては、不利な農業生産条件を補うなど、地域が共同で取り組む活動を支援します。
- 農業用施設、農地や農村環境を適切に管理し、農業・農村が有する多面的機能^{※65}を維持していくため、地域が一体となって取り組む保全活動や長寿命化の活動を支援します。
- 暗渠（あんきょ）排水等による農地の条件整備など、農地の利用率向上に向けた取組を進めます。

3. 農産物の生産振興

- 自然環境への負荷の低減や消費者への安全な農産物の提供を促進します。
- 農業経営の改善や持続可能性の確保、品質の向上に資するとともに、消費者からの信頼の確保につながる取組を促進します。
- 県やJAとの連携により、高品質化や6次産業化、ブランド化等を推進します。

2 畜産業の振興

市の現状と課題

現 状

- 肥育素牛^{※66}の値段が高騰し肥育牛農家の経営の負担となっているため、繁殖雌牛の導入に対する支援の拡充など、増頭や改良に向けた取組を推進しています。
- 高病原性鳥インフルエンザなどの家畜伝染病の流行に備え、県と連携し適切かつ迅速な対応ができる体制を整えています。

課 題

- 生産牛農家の減少が肥育素牛の減少や価格の高騰につながり、肥育牛農家の経営安定に影響を及ぼすことが懸念されます。
- 畜産業を取り巻く厳しい情勢の中、伊万里牛をはじめとした伊万里ブランドの普及拡大が必要となっています。

※ 65 多面的機能：国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全等、農業生産活動が行われることにより生ずる多面にわたる機能のこと。

※ 66 肥育素牛：肥育を目的としている肥育開始前の牛のこと。

取組方針

1. 畜産業の振興

- 肉用牛を中心とした畜産については、ブランド銘柄確立と品質向上につながる取組を実施します。
- 伊万里牛振興会などと連携した効果的な情報発信に努め、生産振興を図ります。
- 肥育素牛の安定供給のため、生産牛農家への支援に努めます。

3 林業の振興

市の現状と課題

現 状

- 市域の約55%を占める森林は、採算性の悪化により、間伐など管理が十分に行われておらず、森林が持つ水源の涵養^{※67}など公益的機能が損なわれつつあります。
- 林業に対する市民の理解を深めるため、木工芸品の制作体験の場や生活環境保全林などの森林に親しむ場を提供し、木材利用の意義等についての学習活動を実施しています。

課 題

- 従事者の高齢化等による担い手不足や木材価格の低迷により、林業を取り巻く環境は厳しい状況にあるため、林業を振興する新たな取組が必要です。
- 林業の採算性の悪化により、施業意欲が低下し、間伐などの管理が十分に行われていない状況となっています。林道をはじめとする生産基盤の整備や高性能機械の導入支援などにより、適正な森林の管理を促進する必要があります。

取組方針

1. 林業の振興

- 森林組合等の林業経営体への施業の集約や高性能機械の導入による低コスト化に努めます。
- 施業の効率化に向け計画的に林道を整備します。
- 森林経営計画に基づいた森林の整備により木材の効率的な供給を図ります。
- 優良材の生産の促進や間伐材の有効活用に努めます。

※67 水源の涵養：

森林の土壌が、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能や雨水が森林土壌を通過する際の水質浄化機能のこと。



4 水産業の振興

市の現状と課題

現状

- 本市の水産業は、静穏な伊万里湾奥部を中心に、10トン未満の小型漁船による底引き網漁やはえ縄漁を中心とした沿岸漁業と、クルマエビやハマチ、フグ、カキなどの養殖漁業が営まれています。
- 地域の人が集まる憩いの場として始まった波多津町ふれあい広場は、カキ焼きや塩づくり体験などにより地元の人や観光客が集まるにぎわいのある施設となっています。

課題

- 各漁家の経営規模が零細なことから、獲る漁業からつくり育てる漁業への一層の転換を図るなど、漁業経営の安定化に向けた取組が求められています。
- 従事者の高齢化等による担い手不足や魚介類価格の低迷により、水産業を取り巻く環境は厳しい状況にあるため、水産業を振興する新たな取組が必要です。

取組方針

1. 水産業の振興

- アサリ貝、ナマコ等の定着性の高い魚介類の放流に取り組むなど、安定的な漁獲量の確保を図ります。
- 環境・生態系の維持、回復や安心して活動できる海域の確保など、漁業者等が行う水産業・漁村の多面的機能を発揮するための地域活動を支援します。
- 各種イベントなどにおける水産物の直売や品質の高さと安全性のPRにより、水産物の販路拡大を図ります。
- 佐賀玄海漁業協同組合との連携により、クルマエビをはじめとする水産物ブランドの確立や消費者ニーズに対応した新たな特産品の開発を促進します。
- 漁業経営の安定化を図るため、商品開発や加工・販売などを行う6次産業化の取組を促進します。
- 波多津町コミュニティセンター等を拠点とし、NPO法人など地域住民が主体となったまちづくり活動との連携による漁港周辺の活性化を図ります。

市民の役割

- ◎地元農産物・水産物を消費することが求められます。
- ◎農村地域における環境保全活動などに積極的に参加することが必要です。
- ◎森林の保全に関心を持つことが必要です。

関連する個別計画

伊万里市農村振興基本計画、伊万里農業振興地域整備計画、伊万里市農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想、伊万里市農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する計画、伊万里市人・農地プラン

施策 14

商工業の振興

施策の 目指す姿

中心市街地への市民や観光客の誘客をはじめ、地場産業の育成、創業支援や企業誘致などにより、活気あふれる商工業が営まれる「まち」を目指します。

市の現状と課題

現 状

- 空洞化が進む中心市街地の活性化の拠点である「伊万里まちなか一番館」の運営を支援するほか、本市の交通の結節点である伊万里駅ビルを改修するなど、まちのにぎわい創出に取り組んでいます。
- 伊万里焼については、長引く消費低迷や安価な輸入品などの影響で厳しい状況にありますが、日本磁器発祥 400 年の節目を迎えたことや肥前窯業圏の日本遺産認定など、その魅力の発信が進んでいます。
- 市内企業を紹介するガイドブックの作成や高校生等を対象とした「伊万里の“いい職”説明会」の開催など、地元企業の PR に努め市内での就職を促進しています。
- 地域の産業と最新のテクノロジーの融合による新たなビジネスの創造や人材育成など、都市部の IT 関連企業との連携や誘致を促進しています。
- 新たに松浦町に伊万里東部（松浦地区）工業団地（仮称）を整備するなど、製造業誘致のための基盤整備を行っています。

課 題

- 中心市街地の活性化に向け、店舗みずからの努力はもとより、関係団体と一体となった取組により、集客力の向上を図る必要があります。
- 高齢化のさらなる進行により、日常の買い物のための移動手段を確保できない市民の増加が懸念されます。
- 松島搦地区開発などの周遊性を高める取組を、中心市街地のにぎわい創出へとつなげていく必要があります。
- 伊万里焼については、新たな商品開発や販路の開拓等が求められています。
- 高校3年生を対象としたアンケートの結果において、生徒の5割を超える進学者のうち将来地元就職したいと考える人は2割程度と低くなっています。
- 大学新卒者やUIJターン^{※68}希望者などが市内で就業できる企業が限られており、若者が地元に残り、あるいは戻ってきて働くことができる雇用の場の確保が求められています。

取組方針

1. 地場商工業の振興

- 市民や企業、関係団体等と一体となり、中小企業の振興を図ります。

※ 68 UIJ ターン：

都市部の居住者が地方に移住する動きの総称のこと。Uターンは出身地に、Iターンは出身地以外の地方に、Jターンは出身地の近くの地方都市に移住する形態のこと。



- 商工会議所等との連携により、中小企業の経営基盤の強化をはじめ、経営革新や人材確保等を支援します。
- 安心して買い物ができる地域の店舗の維持を促進します。また、食材や日用品等の配達サービスなどの取組に対する支援を検討します。
- 創業^{※69} および第二創業^{※70} への取組を支援するとともに、企業や商工団体等を対象とした情報交換の機会を提供し、誘致企業と地場企業、地場企業どうしの取引拡大への支援に努めます。
- 伊万里焼の伝統技術の継承はもとより、窯元による新規性、独創性の高い商品開発や販路開拓、同業種間の連携などに取り組む窯業団体の活動を支援します。

2. 中心市街地のにぎわい創出

- 地域活性化に向けて意欲的な事業者を積極的に支援するほか、子どもから高齢者まで家族が憩える商業施設の進出を促進するなど、集客力の向上を図ります。
- 中心市街地とその近郊での民間事業者による独自の取組を促進し、魅力ある商業空間の形成を図ります。
- 都市圏における物産展の開催や企業等と連携した伊万里焼等のPRを通じたさらなる販売促進活動を展開します。

3. 企業誘致の推進

- 佐賀県などと人事交流を進めるほか、県と連携した企業誘致活動に取り組みます。
- 都市部のIT関連企業から「選ばれるまち」としてのイメージアップを図ります。
- ビジネス支援オフィスを活用するなど、IT関連企業の誘致を強力に推進し、市内外の若者の就職につなげます。
- 伊万里東部（松浦地区）工業団地（仮称）の分譲を開始し、伊万里港や高速道路など物流ネットワークを活用した製造業の集積を図ります。
- 工業用水の安定供給のため、経営の健全化を図り、企業の水需要に対応した計画的な施設更新等に努めます。

4. 勤労者福祉と就労支援の充実

- 市内企業における勤労者福祉の向上を図るため、佐賀県中小企業勤労者福祉サービスセンター等と連携し、働きやすい労働環境への改善促進に取り組みます。
- 商工会議所やハローワークと連携し、新規学卒者等の市内での就労促進に取り組みます。

市民の役割

- ◎ 商店街の利用やにぎわいづくりのイベントへの積極的な参加が必要です。
- ◎ IT関連企業や製造業など地方展開を検討する企業に関する情報提供が求められます。
- ◎ 市内企業の製品やサービスを利用することが必要です。

関連する個別計画

伊万里市まち・ひと・しごと創生総合戦略
伊万里市工業用水道事業経営戦略
伊万里市工業用水施設更新計画

※69 創業：会社や店を新しく始めること。

※70 第二創業：創業後の事業者が、その業態の変更をしたり、新たに別の事業に進出したりすること。

施策15

観光の振興

施策の 目指す姿

さまざまな観光素材を組み合わせ、「観光客の誘致」や「外部消費の導入」策を重点的に展開し、伊万里ブランドの販売が促進され、国内外からの交流人口がさらに増加した「まち」を目指します。

市の現状と課題

現 状

- 全国的に評価が高い伊万里牛を提供する飲食店等のほか、伊万里梨やブドウなどを販売する交流施設や観光農園には、多くの観光客が訪れています。
- 西九州自動車道など道路網の整備をはじめ、九州佐賀国際空港におけるLCC（格安航空会社）の就航、九州に寄港する旅客船の増加など、今後ますます交流人口の増加が見込まれます。
- 福岡都市圏や首都圏、関西圏での伊万里フェア開催会場が増加していることに加え、商業施設での伊万里焼風鈴の展示・販売など、伊万里ブランドの認知度向上を図り観光誘客に取り組んでいます。

課 題

- 福岡都市圏からの誘客を活動の軸に据え、さらなる観光客数の増加に向けた戦略的な展開が求められています。
- 誘客のための宣伝活動や観光施策の中核となる観光協会の体制の強化が必要となっています。
- 本市への観光客のほとんどが日帰りや通過型であることから、滞在時間を伸ばすための工夫が必要です。
- 外国からの観光客の受入のために環境の整備などが求められています。

取組方針

1. 観光資源の開発と活用

- 宿泊・飲食等の関係団体と一体となった戦略的な観光の取組を進め、国内外からの誘客を促進します。
- 観光客の本市での滞在時間を伸ばすことにより消費額の増加を図り、稼げる観光につなげていきます。
- まちづくり団体や民間旅行会社との人的交流による新しい観光資源の開発に積極的に取り組みます。
- 福岡都市圏からの誘客拡大と周遊促進、リピート率の向上などのため、個人旅行者をターゲットにした取組を推進します。



- 伊万里焼や伊万里牛、伊万里梨などの特産品をPRする伊万里フェアや物産展等を福岡都市圏等で開催するなど、伊万里ブランドの認知度を高め誘客を図ります。
- 交流人口の増加による地域経済の活性化を図るため、どっちゃん祭りなど、歴史や文化を生かした観光イベントの充実に努めます。また、伊万里ハーフマラソンなどのスポーツツーリズム、農家民宿やフットパス^{※71}などの体験型観光を推進します。

2. 観光客受入体制の整備

- 本市の観光事業を主体的かつ強力に実践する観光協会の体制強化に取り組みます。
- 西九州自動車道の延伸に伴い、インターチェンジから市内の観光地へ誘導するための案内表示や観光PR看板等の整備に努めます。
- フリーWi-Fiスポットの拡大促進など、新しい観光スタイルに対応した環境整備を図ります。
- 増加する外国人観光客へ対応するため、受入体制の整備を進めます。
- 周辺自治体や関係団体との連携により、伊万里港へのクルーズ船の受入体制づくりを推進します。
- 西九州自動車道のさらなる延伸を見据えた観光施策について、中心市街地までの導線の中で総合的で効果的な取組を検討します。
- 市民の観光に関する知識の習得を促すなど、地域全体で観光客を迎える体制づくりを推進します。

3. 観光宣伝の強化

- さまざまな機会を活用した情報発信に努めます。また、マスコットキャラクターを活用したPR活動に取り組みます。
- 西九州自動車道の整備に伴い広域化する観光ニーズに対応するため、近隣都市と連携して観光ルートの開発や誘客宣伝活動に取り組みます。
- 外国人観光客が本市を訪れるための効果的な情報発信や誘致活動に取り組みます。

市民の役割

- ◎観光に関する知識の習得に努め、もてなしの心で観光客と接することが必要です。
- ◎ひとりひとりが本市の魅力を発信し、観光客の増加につなげることが必要です。

関連する個別計画

伊万里市まち・ひと・しごと創生総合戦略

※71 フットパス：

森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことができる小径（こみち）のこと。

施策16

港湾の活用

施策の 目指す姿

東アジア地域のめざましい経済発展を背景とした貿易量の増大や高度かつ多様な物流ニーズに対応できる高機能な港湾が整備された「まち」を目指します。

市の現状と課題

現 状

- 伊万里港は国際海上コンテナ拠点として日本海側拠点港^{※72}に選定され、国際物流拠点として発展してきました。
- 伊万里港では、平成9年(1997年)に国際コンテナ定期航路が開設されて以来、海外航路の開設を進め、平成27年(2015年)には神戸港との国際フィーダー航路^{※73}を就航するなど、平成30年(2018年)3月現在、5航路・週7便が運航しています。
- 平成25年(2013年)に、七ツ島地区においてガントリークレーン^{※74}を備えた水深13m岸壁の供用が開始され、コンテナ船の大型化に対応するとともに岸壁が2バース^{※75}に拡張されたことから、港湾機能の大幅な向上が図られました。
- 伊万里港における貿易については、国内外の経済動向の影響はあるものの、貿易額は順調に増加しています。
- 佐賀県や佐賀県伊万里港振興会と連携した積極的なポートセールスや集荷活動により、コンテナ取扱量は増加し、九州の港湾において第4位の取扱量となっています。

課 題

- コンテナ貨物の輸入と輸出の取り扱いバランスが悪く、輸入超過となっているため、伊万里港の優位性等をPRし、さらなる集荷活動と航路の拡充を進める必要があります。
- コンテナの保管能力や荷役作業の効率化の向上を図るとともに、周辺地域の関係車両の通行量の増加に伴う課題に対応することが求められています。
- 臨海部への企業誘致や港湾利用企業のニーズに対応するため、県が埋め立てを行っている浦ノ崎地区廃棄物処理用地については、港湾機能を備えた産業用地としての活用を視野に、土地利用計画の策定を県に対し働きかける必要があります。
- 増加する外国人観光客を受け入れ、観光施策等と連携した取組を強化するため、伊万里港でのクルーズ船誘致に関して、周辺自治体や民間団体と連携した受入体制の確立が必要となっています。

※72 日本海側拠点港：

中国や韓国、ロシアなど日本海の対岸諸国の経済発展を日本の成長に取り入れるとともに、災害に強い物流ネットワークの構築を目的に国土交通省が選定する港湾のこと。

※73 国際フィーダー航路：

国内の主要港で基幹航路に接続し、国際コンテナ戦略港湾(阪神港・京浜港)と国内各港を結ぶ航路のこと。

※74 ガントリークレーン：

港湾の岸壁に設置され、コンテナなどの貨物の積み下ろしを行う門型のクレーンのこと。

※75 バース：

船舶が、貨物の積み降ろしや旅客の乗降などを行うために着岸する場所のこと。船1隻が作業を行うために占める水域が1バース。



取組方針

1. 貿易の振興

- 輸出入取扱貨物の増大を図るため、国内外で積極的なポートセールスを展開し、新規荷主の開拓に努めます。また、既存荷主への定期的な訪問により伊万里港のさらなる利用を促進するほか、新たなコンテナ航路の開設に取り組みます。
- 重要港湾である伊万里港が担う役割の向上にあわせて、港湾機能の拡充を促進します。
- 「伊万里港ポートセールス戦略」に基づき、市と民間等が一体となって、企業ニーズを捉えた効果的なポートセールスに努めます。

2. 港湾施設の整備

- 北部九州における国際物流拠点として必要な機能を拡充し、コンテナ保管能力や処理能力の向上を図るため、国、県へ積極的な要望活動を進め、港湾施設の整備を促進します。
- 伊万里港における新たな産業用地の確保と港湾機能の整備に向け、浦ノ崎地区廃棄物処理用地の早期埋め立てを促進します。
- 伊万里港における物流の迅速性を確保する交通体系の構築を図ります。
- 港湾関係車両の増加に伴う交通渋滞の緩和と地域住民の安全確保について、関係機関との連携により対応します。
- 伊万里港の観光面での活用として、周辺自治体や関係団体と連携し、クルーズ船の受入体制づくりを推進します。

市民の役割

- ◎市内企業の海外との取引が求められます。
- ◎臨港道路や港湾施設の整備を円滑に推進するための地域の協力が必要です。